

どんぐりがころがるわけ

なまえ

おんどくサイン

どんぐりを手にとると、丸く
てつるつるしています。木から
地めに落ちると、コロコロと
ころがっていきます。

どんぐりの中には、大きな実
がつまっています。だから、か
るい木の葉とはちがって、ころ
がる力が強くなります。

どんぐりは木のたねです。木
の下で芽を出すと、上の葉に
光をとられてしまいます。

遠くへころがれば、光のよく
当たるばしょに出られます。ま
るいかたちは、遠くへ行くため
のくふうなのです。

(1) 「つまって」のいみに合うものを一つえらび、
記ごうに○をつけましょう。
ア からっぽになつて
イ 外にこぼれて
ウ 中にいっぱい入って
エ うすくのびて

(2) どんぐりは、木の何ですか。一つえらび、
記ごうに○をつけましょう。

- ア 木のたね
- イ 木の花
- ウ 木の根
- エ 木のえだ

(3) どんぐりの中につまっているものは何ですか。
ぶんしょうから四字で書きぬきましょう。

--	--	--	--	--	--

(4) どんぐりが遠くへころがると、どんなよい
ことがありますか。書きましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

書くときのポイント
「〜出られる。」でおわらせる。
「光」ということばをつかう。

こたえ (うら)

- 問1 ウ
- 問2 ア
- 問3 大きな実
- 問4 (れい) 光のよく当たるばしょに出られる。

〈○のつけ方〉
問1～問3は、答えとおなじなら○。
問4は〈光が当たる〉が書けていれば○。

2-10-1-1 v8
2年 説明文

大玉ころがし

なまえ

おんどくサイン

運動会うんどうかいのれんしゅうで、わたしはたけしくんと大玉おおたまをころがしました。

走り出すと、玉たまは右みぎへ右みぎへとまがっていきます。二人ふたりとも力ちからいっぱいおしているのに、まっすぐすすみません。

先生せんせいが「二人ふたりの手てのばしよを見てみごらん。」と言いいました。見みると、わたしの手ては玉たまのまん中なか、たけしくんの手てははしでした。おす力ちからのむきがちがっていたのです。

つぎは、二人ふたりともまん中なかをおしました。玉たまはまっすぐころがりました。わたしは、力ちからのむきをそろえることをおぼえました。

(1) 「そろえる」のいみに合うものを一つえらび、記きごうに○をつけましょう。

ア ばらばらにする

イ 小さくする

ウ かぞえる

エ おなじになるようにする

(2) 玉たまがまっすぐすすまなかったのはなぜですか。一つえらび、記きごうに○をつけましょう。

ア 玉たまが大きすぎたから

イ 風ふうがつよかったから

ウ 玉たまがおもかったから

エ 二人ふたりのおす力ちからのむきがちがったから

(3) わたしの手てがあったばしよはどこですか。ぶんしょうから三字で書きぬきましょう。

(4) つぎに、二人ふたりはどうしましたか。書きましょう。

書くときのポイント

「くおした。」でおわらせる。

「まん中なか」ということばをつかう。

こたえ (うら)

問1 エ

問2 エ

問3 まん 中

問4 (れい) 二人とも まん 中 を お した。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとおなじなら○。

問4は〈まん中 を お した〉が 書けて いれば○。

2-10-1-2 v6

2年 物語文

いものつる

なまえ

おんどくサイン

学級園のさつまいもは、つるが長くのびて、地めんをおおっています。葉も大きく広がっています。

葉は、光をあびて元氣のもとを作ります。作ったものは、つるを通して下へ運ばれます。

運ばれたさきは、土の中の根です。根の一ぶがだんだんふって、さつまいもになります。

だから、いもは実ではなく、根のなかまです。

いもほりの前につるを切るのは、いもをほりやすくするためです。つるは、いもをそだてた大切な道だったのです。

(1) 「おおって」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア 上からすっかかりかぶせて

イ こまかく切って

ウ いろをぬって

エ もち上げて

(2) さつまいもは、どこがふとったものですか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア 葉の一ぶ

イ つるの先

ウ 根の一ぶ

エ 花の中

(3) 葉が光をあびて作るものは何ですか。ぶんしようにから五字で書きぬきましょう。

(4) いもほりの前につるを切るのはなぜですか。書きましょう。

書くときのポイント

「くため。」でおわらせる。

「ほりやすく」ということばをつかう。

こたえ(うら)

- 問1 ア
問2 ウ
問3 元氣のもと
問4 (れい) いもをほりやすくするため。

〈○のつけ方〉
問1～問3は、答えとおなじなら○。
問4は〈ほりやすくする〉が書いていれば○。

2-10-1-3 v8

2年 説明文

みかんのすじ

なまえ

おんどくサイン

みかんの皮をむくと、白いすじがついてきます。じゃまだと思^{おも}って、ぜんぶとる人^{ひと}もいます。

あのすじは、木^きから実^みへ水^{みず}を送^{おく}る道^{みち}です。えだの先^{さき}から皮^{かわ}を通^{とお}り、中^{なか}のつぶまでつながっています。

みかんが^{おお}大^{おお}きくなるあいだ、すじはずっとはたらい^{はい}ていました。水^{みず}を送^{おく}りおえたあとも、そのま^ままのかたちでのこっているのです。

すじには、体^{からだ}によいものも入^{はい}っています。あじが少^{すこ}しにないので、き^{ひと}らう人^{ひと}もいます。それでも、じゃまに見^みえるものにもやくめがあるのです。

(1) 「つながって」のいみに合うものを一つ

えらび、記^きごうに○をつけましょう。

ア ばらばらになって

イ 切^きれないでつづいて

ウ かたくなって

エ 白^{しろ}くなって

(2) 白いすじは、木^きから実^みへ何^{なに}を送^{おく}る道^{みち}ですか。

一つえらび、記^きごうに○をつけましょう。

ア 空気

イ 水

ウ 光

エ 土

(3) 白いすじは、みかんのどこまで

つながっていますか。ぶんしょうから四字で

書きぬきましょう。

(4) このぶんしょうから、じゃまに見える

ものについてどんなことがわかりますか。

書きましょう。

書くときのポイント

「ある。」で終わらせろ。

「やくめ」ということばをつかう。

こたえ (うら)

問1 イ

問2 イ

問3 中のつぶ

問4 (れい) じゃまに見えるものにも、やくめがある。

<○のつけ方>

問1～問3は、答えとおなじなら○。

問4は〈やくめがある〉が書けていれば○。

2-10-1-4 v7

2年 説明文

おちばのプール

なまえ

おんどくサイン

そうじの時間^{じかん}に、校^{こう}ていの落^おち葉^はをあつめました。ほうきで
はくと、落^おち葉^はは山^{やま}になりました。
た。

あつめおわると、まさとくんが
「プールみたい。」と言^いいまし
た。ほんとうに、大^{おお}きな山^{やま}が三^{みつ}
つできています。

先生^{せんせい}が「もう一回^{いっかい}あつめられ
るなら、いいよ。」と言^いいまし
た。ぼくたちは、そつと山^{やま}の上^{うへ}
にすわりました。かさかさと、
かわいた音^{おと}がしました。

起^おき上^あがると、ふくに葉^はがく
つついています。ぼくたちは、
またほうきをもちました。こん
どの山^{やま}は、さっきより早^{はや}くでき
ました。

(1) 「くつついて」のいみに合うものを一つ
えらび、記^きごうに○をつけましょう。

ア とんでいって
イ もえて

ウ はなれないでついて
エ ぬれて

(2) まさとくんは、落^おち葉^はの山^{やま}を見て何^{なに}と
言^いいましたか。一つえらび、記^きごうに○を
つけましょう。

ア 「プールみたい。」
イ 「あついね。」

ウ 「かえろう。」
エ 「つめたいね。」

(3) 落^おち葉^はをあつめるのにつかったものは
何^{なに}ですか。ぶんしょうから三字で書^かきぬきましょう。

(4) 山^{やま}の上にすわったとき、どんな音^{おと}が
しましたか。書^かきましょう。

書くときのポイント

「く音^{おと}がした。」でお知らせる。

「かさかさ」ということばをつかう。

こたえ (うら)

問1 ウ

問2 ア

問3 ほうき

問4 (れい) かさ
かさど、かわいた
音^{おと}がした。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答^{こた}えと
おなじなら○。

問4は〈かさかさ〉が
書^かけていれば○。

2-10-1-5 v7

2年 物語文

はちみつの色^{いろ}

なまえ

おんどくサイン

はちみつには、うすい色^{いろ}のものと、こい色^{いろ}のものがあります。あじも少し^{すこ}ずつちがいます。

はちみつは、みつばち^{はな}が花^{はな}のみつをあつめて作り^{つく}ます。どの花^{はな}からあつめたかで、色^{いろ}やあじがかわるのです。

れんげの花^{はな}のみつは、うすい黄色^{きいろ}でさっぱりしています。そばの花^{はな}のみつは、こげ茶色^{ちやいろ}でこくなります。

びんのラベルには、花^{はな}の名^なまえが書いてあることがあります。色^{いろ}を見^みれば、みつばち^{はな}がどの花^{はな}を回^{まわ}ったかわかるのです。

(1) 「あつめて」のいみに合うものを一つえらび、記^しごうに○をつけましょう。

ア 二つに分けて

イ 外へすてて

ウ ゆっくりふやして

エ いろいろなところから一つにして

(2) はちみつの色やあじは、何でかわりますか。一つえらび、記^しごうに○をつけましょう。

ア びんの大きさ

イ 作った日

ウ みつばちの大きさ

エ どの花からみつをあつめたか

(3) そばの花のみつは、何色ですか。ぶんしょうから四字で書きぬきましょう。

(4) はちみつの色を見ると、どんなことがわかりますか。書きましょう。

書くときのポイント

「わかる。」でお知らせる。
「花^{はな}」ということばをつかう。

こたえ (うら)

問1 エ

問2 エ

問3 こげ茶色

問4 (れい) みつばちがどの花を回ったかわかる。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとおなじなら○。

問4は〈どの花〉が書けていれば○。

2-10-2-1 v6

2年 説明文

うんどうかいのおべんとう

なまえ

おんどくサイン

運動会のお昼、家ぞくと木の
かげにすわりました。おべんと
うのふたを開けると、おにぎり
が五つならんでいます。

大きさは、ばらばらでした。ぼ
くは、いちばん小さいおにぎり
をとりました。走ったあとで、
おなかにはぺこぺこでした。

いもうとが「お兄ちゃん、そ
れでいいの。」と聞きました。ぼ
くは「いいよ。」と答えました。
ほんとうは、大きいのが食べた
かったのです。

帰るとき、おかあさんが「あ
した、大きいのをにぎるね。」と
言いました。見ていないと思っ
ていたので、ぼくは少しはずか
しくなりました。

(1)「ぺこぺこ」のいみに合うものを一つえらび、
記ごうに○をつけましょう。

ア とてもおなかがいっぱい

イ とても元気がよい

ウ おねがいっぱいだ

エ のどがかわいた

(2)ぼくは、どのおにぎりをとりましたか。一つ
えらび、記ごうに○をつけましょう。

ア いちばん大きいおにぎり

イ まん中のおにぎり

ウ いちばん小さいおにぎり

エ どれもとらなかった

(3)おべんとうの中にならんでいたおにぎりは
いくつですか。ぶんしょうから二字で
書きぬきましょう。

(4)帰るとき、おかあさんは何と言いましたか。
書きましょう。

書くときのポイント

「〜と言った。」でおわらせる。

ぶんしょうのことをそのままつかってよい。

こたえ (うら)

問1 ア

問2 ウ

問3 五つ

問4 (れい)「あした、大きいのをにぎるね。」と言った。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとおなじなら○。

問4は〈大きいのをにぎる〉が書けていれば○。

2-10-2-2 v7

2年 物語文

月の出る時こく

なまえ

おんどくサイン

きのうゆうがたに見えた月が、きようはなかなか出てきません。月の出る時こくは、まいにちかわっているのです。

月は、およそ五十分ずつおそく出ます。きのうよりきようがおそく、きようよりあしたがおそくなります。

月は、地きゅうのまわりを回っています。地きゅうが一回回るあいだに、月も少し先へすみます。だから、そのぶんおそく出るのです。

月のかたちも、まいにちかわります。時こくとかたちを気にして空を見ると、月のうごきがわかってきます。

(1) 「およそ」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア ぴったり
イ だいたい
ウ まったく
エ やっと

(2) 月は、まいにちどれくらいおそく出ますか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア 十ぶん
イ 五十ぶん
ウ 一時間半
エ 二時間

(3) 月がまわりを回っているものは何ですか。ぶんしようにから四字で書きぬきましょう。

(4) 月がまいにちおそく出るのはなぜですか。書きましょう。

書くときのポイント

「くから。」でおわらせる。
「月」ということばをつかう。

こたえ (うら)

問1 イ

問2 イ

問3 地きゅう

問4 (れい) 地きゅうが一回 回るあいだに、月も 少し 先へ すすむから。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとおなじなら○。
問4は〈月も 先へ すすむ〉が 書けて いれば○。

2-10-2-3 v7

2年 説明文

ススキのほ

なまえ

おんどくサイン

秋^{あき}の野原^{のはら}で、ススキのほが白^{しろ}く光^{ひか}っています。近く^{ちか}で見^みると、細^{ほそ}い毛^けがたくさんついてい
ます。

毛^けのもとには、小^{ちい}さなたねが
一つ^{ひとつ}ずつついています。毛^けは、
たねのパラシュートです。ほ
一本^{いっぽん}に、たねが何^{なんじつ}十^{じゅう}こもついて
います。

風^{かぜ}がふくと、たねは毛^けごとは
なれて空^{そら}へまい上^あがります。と
てもかるいので、川^{かわ}のむこうま
ではこばれることもあります。
春^{はる}になると、はこばれたさき
で芽^めが出^でます。ススキがあちこ
ちに生^はえているのは、風^{かぜ}にたね
をあずけてきたからです。

(1) 「まい上がります」のいみに合うものを一つ
えらび、記^きごうに○をつけましょう。

ア 地^ちめんにおちる
イ まるくなる
ウ ふわりと高くのぼる
エ 止^{とど}まる

(2) ススキの毛^けのものとについているものは
何^{なに}ですか。一つえらび、記^きごうに○をつけましょう。

ア 小^{ちい}さなたね
イ 水^{みづ}のつぶ
ウ 虫^{むし}のたまご
エ 花^{はな}びら

(3) ススキの毛^けは、たねの何^{なん}だと
書^かいてありますか。ぶんしょうから六^む字^じで
書^かきぬきましょう。

(4) ススキがあちこちに生^はえているのは
なぜですか。書^かきましょう。

書^かくときのポイント

「くから。」でおわらせる。
「風^{かぜ}」ということばをつかう。

こたえ (うら)

問1 ウ

問2 ア

問3 パラシュート

問4 (れい) 風に
たねをはこんで も
らう から。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えと
おなじなら○。

問4は〈風^{かぜ}がたねをは
こぶ〉が書^かけていれ
ば○。

2-10-2-4 v6

2年 説明文

なわとびのひも

なまえ

おんどくサイン

休み時間になわとびをしました。かりたなわは、わたしには長すぎました。回すと、はしがゆかをたたいて音がします。

何回とんでも、すぐに足に引っかかります。前にとべた数の半分もとべません。

見ていた六年生のお姉さんが、「むすんでみたら。」と言いました。手の近くで、ひもを一回むすんでくれました。なわが短くなりました。

もう一度回すと、ゆかをたたく音がしません。二十回つづけてとべました。長さが合うだけで、こんなにちがうのだと思いました。

(1) 「引っかかります」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア どこまでもすすむ

イ 高くとび上がる

ウ のびて長くなる

エ ものにぶつかって止まる

(2) なわが長すぎると、どうになりましたか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア とてもよくとべた

イ なわが切れた

ウ なわが見えなくなった

エ はしがゆかをたたいて音がした

(3) なわをむすんでくれたのはだれですか。ぶんしょうから八字で書きぬきましょう。

(4) なわをむすんだあと、どうになりましたか。書きましょう。

書くときのポイント

「とべた。」でおわらせる。
「二十回」ということはをつかう。

こたえ (うら)

問1 エ

問2 エ

問3 六年生のお姉さん

問4 (れい) なわが短くなり、二十回つづけてとべた。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとおなじなら○。

問4は〈二十回 とべた〉が書けていれば○。

2-10-2-5 v8

2年 物語文

かかしのやくめ

なまえ

おんどくサイン

いねのみのった田んぼに、かかしが立っています。ぼうしをかぶり、ふるいふくをきています。

かかしは、米を食べにくる鳥をおいはらうために立てられました。遠くから見ると、田を見はる人のように見えます。

ところが、いつも同じばしよに立っていると、鳥はだんだん慣れてしまいます。かかしのかたにとまる鳥も出てきます。そこで、ときどきばしよをかえたり、ふくをとりかえたりします。かかしは、立てておくだけではやくに立たないのです。

(1) 「おいはらう」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア おって遠くへ行かせる

イ よんであつめる

ウ そだててふやす

エ かこんでまもる

(2) 鳥がかかしになれてしまうのはなぜですか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア かかしが小さいから

イ かかしが白いから

ウ いつも同じばしよに立っているから

エ 田んぼが広いから

(3) かかしがかぶっているものは何ですか。ぶんしょうから三字で書きぬきましょう。

(4) 鳥がなれないように、どんなことをしますか。書きましょう。

書くときのポイント

「〜する。」「で」をお知らせる。

「はしよ」ということばをつかう。

こたえ (うら)

問1 ア

問2 ウ

問3 ぼうし

問4 (れい) ときどきばしよをかえたり、ふくをとりかえたりする。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとおなじなら○。

問4は〈ばしよをかえる〉が書けていれば○。

2-10-3-1 v6

2年 説明文

てつぼうのまめ

なまえ

おんどくサイン

さかあがりができるようになりたくて、まいにちてつぼうにぶら下がりました。手がいたくなっても、つづけました。

一しゅうかんたった朝、手のひらに小さなまめができていました。おかあさんに見せると、「がんばったしるしね。」と言いました。

あくる朝、まめがつぶれてひりひりしました。てつぼうをにぎると、少ししみます。わたしは、かた手ずつゆっくり回りました。

三日目の昼休み、体がするりと上にあがりました。さかあがりのできたのです。手のひらのまめは、まだかたくのこっていました。

(1) 「するりと」のいみに合うものを一つえらび、記ごとに○をつけましょう。

ア おもたくゆっくり
イ なめらかにかるく

ウ 音を立てて

エ 少しずつ何回も

(2) 手のひらにまめができたのはいつですか。一つえらび、記ごとに○をつけましょう。

ア はじめた朝

イ 一しゅうかんたった朝

ウ あくる朝

エ 三日目の昼休み

(3) おかあさんは、まめを何だと言いましたか。ぶんしょうから八字で書きぬきましょう。

(4) 三日目の昼休みに、どんなことができましたか。書きましょう。

書くときのポイント

「〜できた。」でおわらせる。

「さかあがり」ということばをつかう。

こたえ (うら)

問1 イ

問2 イ

問3 がんばったしるし

問4 (れい) さかあがり

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとおなじなら○。

問4は〈さかあがりできた〉が書いていれば○。

2-10-3-2 v7

2年 物語文

いねかりのあと

なまえ

おんどくサイン

いねかりがおわった田んぼは、切りかぶだけがならんでいます。金色だった田が、いっぺんに広く見えます。

かり取ったいねからは、まず米つぶをとります。のこったくきや葉が、わらです。わらは、すてられません。

わらは、たばねてなわになります。牛のしきわらにもなります。畑にすきこむと、土の中でくさってこやしになります。

切りかぶからは、また細い芽が出てきます。あたたかいとしには、小さなほがつくこともあります。

(1) 「たばねて」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア こなにしてい

イ 水にうかべて

ウ まとめてしばって

エ もやして

(2) いねから米つぶをとったあとにのこるものは何ですか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア くきや葉

イ 根

ウ 花

エ 水

(3) わらを畑にすきこむと、何になりますか。ぶんしょうから三字で書きぬきましょう。

(4) いねかりがおわった田んぼは、どう見えますか。書きましょう。

書くときのポイント

「く見える。」でおわらせる。

「切りかぶ」ということばをつかう。

こたえ (うら)

問1 ウ

問2 ア

問3 こやし

問4 (れい) 切りかぶだけがならんで、いっぺんに広く見える。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとおなじなら○。

問4は〈広く 見える〉が書けて いれば ○。

2-10-3-3 v6

2年 説明文

うろこぐも

なまえ

おんどくサイン

秋^{あき}の空^{そら}を見^み上げると、小^{ちい}さな白^{しろ}い雲^{くも}がたくさんならんでいることがあ^さります。魚^{さかな}のうろこのように見^みえるので、うろこぐもとよばれます。

この雲^{くも}は、とても高^{たか}いところ^{ところ}にでき^きます。地^ち上^{じやう}から五^ご千^{せん}メートルより上^{うへ}です。

高^{たか}いところは、とてもさむいばし^しです。だから、うろこぐもは水^{みづ}のつぶで^ではなく、小^{ちい}さな氷^{こおり}のつぶででき^きていま^{いま}す。

うろこぐもが出^でたあと、天^{てん}気^きがくずれることがあ^あります。むかしから、この雲^{くも}は雨^{あめ}のしらせと言^いわれてき^きました。

(1) 「しらせ」のいみに合うものを一つえらび、記^きごうに○をつ^つけま^まし^しよう。

ア もうおわ^わったこと^{こと}のきろく

イ だれにも見^みえないもの

ウ 空^{そら}にかか^かるはし

エ これからおこ^こることをつた^たえるもの

(2) うろこぐもは、何^{なに}ででき^きていま^{いま}すか。一つえら^えび、記^きごうに○をつ^つけま^まし^しよう。

ア 水^{みづ}のつ^つぶ

イ すな

ウ けむ^むり

エ 小^{ちい}さな氷^{こおり}のつ^つぶ

(3) うろこぐもは、何^{なに}のよう^{よう}に見^みえますか。ぶん^{ぶん}し^しようから五^ご字^じで書^かきぬ^ぬきま^まし^しよう。

(4) うろこぐもが出^でたあと、どん^{どん}なことがあ^ありますか。書^かきま^まし^しよう。

書^かくとき^{とき}のポイ^{ポイ}ント

「〜ある。」で^でおわ^わらせ^せる。

「天^{てん}気^き」とい^いうことば^{ことば}をつ^つか^かう。

こたえ (うら)

問1 エ

問2 エ

問3 魚^{うろこ}のうろこ

問4 (れい) 天^{てん}気^きがくずれることがあ^ある。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答^{こた}えとおな^{おな}じなら○。

問4は〈天^{てん}気^きがくずれる〉が書^かけてい^いれば○。

2-10-3-4 v7

2年 説^{せつ}明文^{ぶん}

かえりのかい

なまえ

おんどくサイン

かえりのかいで、わたしは今日のふりかえりを話すことになりました。何も考えていなかったの、頭の中が白くなりました。

「えっと、その、たのしかったです。」それだけ言って、すわってしまいました。となりの子が、小さくうなずいてくれました。

家に帰って、わたしはノートに三つ書きました。図工でねん土をこねたこと。給食をおかわりしたこと。そうじでまどをふいたこと。

つぎのかえりのかいで、わたしはそのノートを見ながら話しました。三つとも言えました。すわったとき、手が少しあつくなっていました。

(1) 「こねた」のいみに合うものを一つえらび、記ごとに○をつけましょう。

ア 手でよくまぜてやわらかくした
イ ならべてかぞえた

ウ 高く積み上げた

エ 水でながした

(2) つぎのかえりのかいで、わたしはどうしましたか。一つえらび、記ごとに○をつけましょう。

ア 何も言わなかった

イ 先生に話してもらった

ウ ノートを見ながら話した

エ となりの子と話した

(3) はじめのかえりのかいで、わたしが言えたことは何ですか。ぶんしょうから八字で書きぬきましょう。

(4) はじめのかいとつぎのかいで、話し方はどうかわりましたか。書きましょう。

書くときのポイント

「言えた。」でおわらせる。

「三つ」ということばをつかう。

こたえ(うら)

問1 ア

問2 ウ

問3 たのしかったです

問4 (れい) はじめは一つしか言えなかったが、つぎは三つとも言えた。

<○のつけ方>

問1～問3は、答えとおなじなら○。

問4は〈三つとも言えた〉が書けていれば○。

2-10-3-5 v6

2年 物語文

もみじの手

なまえ

おんどくサイン

もみじの葉を一まいひろつて、手のひらにのせてみましょう。じぶんの手とそっくりのかたちです。

葉のさきは、五つにわかれて
います。まん中がいちばん長
く、外がわへ行くほど短くなり
ます。ゆびと同じならびです。

このかたちだと、どのさきにも
光が当たります。葉どうしが
かさなり合わないの、一まいで
むだなくはたらけます。

もみじという名前は、「もみ
づ」というふるいことばからき
ました。秋に色が変わるようす
をあらわすことばです。

(1) 「そっくり」のいみに合うものを一つえらび、
記ごとに○をつけましょう。

ア まったくちがう
イ とてもよくにている

ウ とても小さい
エ だんだんかわる

(2) もみじの葉のさきは、いくつに
わかれていますか。一つえらび、記ごとに○を
つけましょう。

ア 三つ
イ 五つ
ウ 六つ
エ 七つ

(3) もみじの葉のさきで、いちばん長いところは
どこですか。ぶんしょうから三字で書きぬきましょう。

(4) さきがわかれていると、どんなよいことが
ありますか。書きましょう。

書くときのポイント

「〜当たる。」でお知らせる。
「光」ということばをつかう。

こたえ (うら)

- 問1 イ
問2 イ
問3 まん
問4 (れい) どの
さきにも 光が 当た
る。

〈○のつけ方〉
問1～問3は、答えと
おなじなら ○。
問4は 〈光が 当たる〉
が 書けて いれば ○。

2-10-4-1 v6

2年 説明文

二人で一つのかさ

なまえ

おんどくサイン

帰り道で、急に雨がふってきました。わたしはかさをもっていました。みきちゃんもっていません。

「入って。」と言って、かさを高く上げました。二人で入ると、かたがつかえてうまく歩けません。

しばらくすると、みきちゃんのかたがぬれていることに気づきました。わたしは、かさをみきちゃんのほうへかたむけました。

家につくと、わたしの右のそでがぬれていました。みきちゃん「あしたはわたしもってくる。」と言いました。雨の音が、少し明るく聞こえました。

(1) 「つかえて」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア つめたくなって
イ かるくなって

ウ ものに当たって先へすすめなくなって
エ からまって

(2) わたしは、かさをどちらへかたむけましたか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア みきちゃんのほう

イ じぶんのほう

ウ 上のほう

エ 後ろのほう

(3) 家についたとき、ぬれていたのはどこですか。ぶんしょうから四字で書きぬきましょう。

(4) みきちゃんは、さいごに何と言いましたか。書きましょう。

書くときのポイント

「〜と言った。」でおわらせる。

ぶんしょうのことをそのままつかってよい。

こたえ (うら)

問1 ウ

問2 ア

問3 右の そで

問4 (れい)「あしたはわたしがもってくる。」と言った。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとおなじなら○。

問4は〈わたしがもってくる〉が書いていれば○。

2-10-4-2 v7

2年 物語文

セーターがちくちくするわけ

なまえ

おんどくサイン

さむくなつて、たんすからセーターを出だしました。首くびのあたりがちくちくして、気きになります。

セーターのいとは、ひつじの毛けでできています。毛けを近ちかくで見ると、一本いっほんずつ先さきが細ほそくがつています。その先さきが、たくさん外そとをむいています。

とがった先さきがはだに当あたると、ちくちくとかんじます。太ふとい毛けほどかたいので、よけいにかんじます。

下したにうすいシャツをきると、毛けの先さきがはだにとどきません。それだけで、ちくちくは少すくなくなります。ふゆのしたくは、この一いちまいから始はじまります。

(1) 「とがって」のいみに合うものを一つえらび、記きごうに○をつけましょう。

ア 先さきがまるくなつて
イ みじかく切きられて
ウ やわらかくぬれて
エ 先さきが細ほそくするどくなつて

(2) セーターのいとは、何なんからできていますか。一つえらび、記きごうに○をつけましょう。

ア 木きのかわ
イ 紙かみ
ウ すな
エ ひつじの毛け

(3) どんな毛けほどかたくなりますか。ぶんしょうから三字で書きぬきましょう。

(4) ちくちくを少なくするには、どうすればよいですか。書きましょう。

書くときのポイント

「〜きる。」で終わらせる。
「シャツ」ということばをつかう。

こたえ (うら)

- 問1 エ
問2 エ
問3 太い毛
問4 (れい) 下にうすいシャツをきる。

〈○のつけ方〉
問1～問3は、答えとおなじなら○。
問4は〈シャツをきる〉が書けていれば○。

2-10-4-3 v7

2年 説明文

ほうきの先さき

なまえ

おんどくサイン

そうじのほうきをならべると、先さきがななめになったものがあります。まっすぐなものもあります。

ほうきは、はくたびにゆかとかすれます。いつも同じおなむきではいていると、当あたるがわだけがすりへります。

先さきがななめになると、ゆかにつくところがへります。ごみをあつめる力ちからがよくなります。そこで、ときどき手てのむきをかえてはきます。しまうときに立てたておくと、先さきがつぶれません。ほうきは、つかいかたでもちがかわります。

(1) 「すりへります」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア こすれて小さくなる

イ 水をすっておもくなる

ウ まがつてかたくなる

エ 白く色がかわる

(2) ほうきの先がななめになるのはなぜですか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア あたらしいから

イ 水にぬれたから

ウ いつも同じむきではいているから

エ 長くしまっていたから

(3) 先がななめになると、何をあつめる力がよくなりますか。ぶんしょうから二字で書きぬきましょう。

(4) ほうきを長くつかうには、どうすればよいですか。書きましょう。

書くときのポイント

「はく。」でかわらせる。

「むき」ということばをつかう。

こたえ (うら)

問1 ア

問2 ウ

問3 ごみ

問4 (れい) ときどき手のむきをかえてはく。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答えとおなじなら○。

問4は〈むきをかえる〉が書けていれば○。

2-10-4-4 v6

2年 説明文

あきの虫とり

なまえ

おんどくサイン

日曜日^{にちようび}に、弟^{おとうと}と原^{はら}っぱへ虫^{むし}とりに行^いきました。草^{くさ}の中^{なか}から、バッタが^だつぎつぎにとび出^でします。

わたしは、大^{おお}きなバッタを一^{いっ}ぴきつかまえました。かごに入^いれると、弟^{おとうと}が顔^{かお}を近^{ちか}づけてじっと見^みました。

家^{いえ}に帰^{かえ}る前^{まえ}、弟^{おとうと}が「この子^こ、草^{くさ}を食^たべるかな。」と言^いいました。かごの中^{なか}には、草^{くさ}が入^{はい}っていません。わたしは、少^{すこ}しまりしました。

二人^{ふたり}で、かごのふたを開^あけました。バッタは大^{おお}きくはねで、草^{くさ}のおくへきえました。弟^{おとうと}は「また来^こよう。」と言^いいました。

(1) 「つぎつぎに」のいみに合うものを一つ

えらび、記^きごうに○をつけましょう。

ア たった一回^{いちど}だけ

イ あとからあとからつづけて

ウ しずかにゆっくり

エ だんだん少^{すく}なく

(2) 弟^{おとうと}は、かごを見て何^{なに}と言^いいましたか。一つえらび、記^きごうに○をつけましょう。

ア 「大きいね。」

イ 「この子^こ、草^{くさ}を食^たべるかな。」

ウ 「もう帰^{かえ}ろう。」

エ 「もう一^{いっ}ぴきとろう。」

(3) わたしがつかまえたバッタは何^{なん}びきですか。ぶんしようにから三字^{さんじ}で書^かきぬきましょう。

(4) さいごに二人^{ふたり}はどうしましたか。書^かきましょう。

書^かくときのポイント

「くした。」でおわらせる。

「ふた」ということばをつかう。

こたえ (うら)

問1 イ

問2 イ

問3 一^{いっ}ぴき

問4 (れい) かごのふたを開^あけて、バッタをにがした。

〈○のつけ方〉

問1～問3は、答^{こた}えとおなじなら○。

問4は〈ふたを開^あけた〉が書^かけていれば○。

2-10-4-5 v6

2年 物語文